

ふるさとの 其の27 誇り

甲斐源氏活躍の舞台

加賀美遠光とその子どもたち



加賀美遠光 小笠原長清父子像（開善寺蔵）
鎌倉時代の歴史書である「吾妻鏡」には遠光・長清親子の名がたびたび登場します。

南アルプス市内のすべての小学校が
修学旅行で訪れる、古都鎌倉。およそ
800年前に源頼朝が鎌倉幕府を開く
頃、歴史の表舞台には南アルプス市を
本拠地とし、武芸に優れた源氏の一族
の名がたびたび登場します。

今回は武家の名門 加賀美遠光とそ
の子、秋山光朝、小笠原長清について
ご紹介します。

甲斐の国に源氏の勢力が根付いたの
はちょうど源平の争いの頃で、源清光
が子どもたちを甲斐の国内各地に配置
し、治めたことから「甲斐源氏」の歴
史が始まります。加賀美遠光親子によ
り南アルプス市もその舞台に選ばれた
のです。

父 加賀美遠光

清光の三男といわれ、甲斐源氏の中
で最も発展した一族はこの武士から始
まります。今の若草地区加賀美を本拠
地とし、法善寺が館跡といわれ、周り
の堀や土塁にその面影が残ります。
宮中に仕えていた頃、「鳴弦の術」に
よって宮中の怪異を鎮めたという伝承
が残されている他、頼朝の信頼が厚
かったことなどで知られます。

長男 秋山光朝

遠光の長男、太郎光朝は甲西地区秋
山を本拠地とし、秋山光朝と呼ばれま
す。現在の熊野神社が館跡といわれ、
その眼下にある光朝廟所には、遠光・
光朝・光朝の妻の墓と伝わる五輪塔が
安置されています。

光朝は平家全盛の時代に平家嫡流家
の娘を嫁にするなど、京で活躍してい
ましたが、頼朝の挙兵により、源氏と
平家の間で苦しむこととなるのです。

次男 小笠原長清

遠光の次男、次郎長清は櫛形地区小
笠原に館を構え小笠原長清と呼ばれま
す。現在の小笠原小学校付近が館跡と
いわれ、現在でも「御所庭」「的場」

などの地名が残ります。

父遠光と共に頼朝の信頼を得た長清
は、「弓馬の四天王」に数えられるほ
ど武芸に秀で、頼朝のもと流鏑馬の作
法を定めます。長清の作法は代々受け
継がれる中で育まれ、小笠原流礼法・
流鏑馬として現在も全国にその名を轟
かせており、武家の名門へと発展して
ゆくのです。

また、南アルプス市にゆかりの源氏
として、遠光の娘の大式局や、遠光の
弟で、南湖を本拠地とした奈古十郎義
行などが活躍しています。

中世の南アルプス市は、変わりゆく
歴史の奔流の中で、確実にその舞台と
して刻まれているのです。



加賀美遠光館跡（法善寺）
法善寺の周辺、加賀美地区には群像の目状の
細い道が残されており、古くから栄えていた
ことを伝えます。



遠光・光朝木造
秋山の光朝廟所内には、父子の木造が安置さ
れています。



小笠原小学校舎のレリーフ
長清の業績をたたえ、館跡と伝わる校舎には
武芸の様子を描かれています。

※3 源頼朝の息子たち（二代將軍頼家、三代將軍実朝）の養育係として活躍したほか、近年運慶に仏像を製作させたことが判明するなど幕府の実力者として注目される。

※1 弓に矢をつがえずに弦を引き音を鳴らす事により気を散らす退魔儀礼であり、鳴弦の儀ともいう。魔気・邪気を散らす事を目的とする。
※2 死者の霊を祀る所。墓所。